

この章について

民具の名称を比較するために、全国の民具名を集める手立てとして、プロジェクトの初期には、まず生産用具・生活用具の中から、主要な民具の項目を並べた全体表をつくり、地域の民具研究者の協力を得て、民具の項目ごとに各地の代表的な方言名を埋めていくこととした。それが前編（『国際常民文化研究叢書6—民具の名称に関する基礎的研究—[民具名一覧編]』）で提示した全国の「民具名一覧表」（以下「全国表」）である。ただし、全国を代表するような項目名のリストをめざすために、全国表には、地域特有の民具は取り上げにくい。従って、そのような民具の名称を記入する欄がない場合が多い。また、同一の目的で使われる民具であっても、形態や素材に差異があり、項目として表明した民具と、果たして“同じもの”として並べてもよいものかを記入者が迷う事例がしばしば登場する。【全国表】の「説明」欄は詳しく厳密に記載すればするほど“同一”の民具といえる物は限られてきて、例にあげた民具を除くと、全国すべてが空欄になりかねない。そこで全国表の記述はなるべく、その民具の基本的な形態と基本的機能を簡潔に記すことにして、それぞれの地方の民具について別途、地域別に一覧表を作成し、地域ごとの民具の詳細についてはその中で記述する方法をとることにした。それが本章に掲載する【地域別民具一覧】（以下「地域呼称一覧」または「地域表」）である。全国表の項目には登場しない民具についても、なるべく地域的に典型的に見られるものは掲載するようにし、その地域の民具の全体像を捉えるようにすることを意識した。地域表に、全国表にはない民具が多く含まれているのはそのためである。また、将来的に海外の民具との比較表を作ることも視野に入れ、今回のプロジェクトのメンバーに縁がある国として、イランと、日本の民具との比較に重要な手がかりが得られると思われる隣国の韓国の民具について、試みに検討をさせていただいた。今後の展開の見通しを得るために取り上げたものである。

〈凡例にかえて〉

今回のプロジェクトでは、全体表では8つの地域の民具名の比較表を作るにとどまったが、地域別民具一覧はなるべく北から南までが並ぶように心がけ、9地域分作成した。また、読者の利便性を考え、地域ごとに小扉を設け、「表（図像を含む）」→「解説」の順に掲載している。なお、これらの表には市町村単位の民具をまとめたものと、県単位のものとが混在するが、今後研究が進み、市町村単位の民具一覧→県単位の民具一覧→全国一覧というルートと、履物や灯火具などの分野別一覧→全国表というルートの二方向から体系化されていくことが望まれる。なお、今回作成した【地域別民具一覧】は、地域ごとに若干その作り方が異なっている。これは、主にコレクションごとのリストの成り立ち（作成までの経緯）の差異による。その詳細は各地の凡例をご覧ください。また、海外の民具については、2つの国の事例をご参照下さい。

目次

会津・只見の民具 ……………p. 17	近畿・滋賀の民具 ……………p. 189
越後・奥三面の民具 ……………p. 75	南九州・鹿児島島の民具 ……………p. 229
関東・川崎の民具 ……………p. 91	沖縄の民具 ……………p. 305
関東・羽村の民具 ……………p. 103	海外の民具／イラン ……………p. 352
東海・沼津の民具 ……………p. 121	／韓国 ……………p. 372
中部・徳山の民具 ……………p. 157	